

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA



第197回定期演奏会
The 197th Regular Concert

～日本音楽集団創立45周年記念シリーズ～

秋によせる

2009年11月18日[水]

午後7時開演
第一生命ホール

主催：特定非営利活動法人日本音楽集団

NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク／第一生命ホール

助成：平成21年度文化芸術振興費補助金（芸術創造活動特別推進事業）

財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

■ 日本音楽集団：<http://www.promusica.or.jp/> E-mail：office@promusica.or.jp

■ NPOトリトン・アーツ・ネットワーク：<http://www.triton-arts.net>



プログラムへの言葉

和田 薫



この度は、創立45周年を迎えられたこと、誠に慶賀の至りに存じます。

名実ともに現代邦楽界をリードし、その発展に大きく寄与されてきた日本音楽集団の45年という足跡は、まさに戦後の現代邦楽の歴史そのものであり、私たち作曲家にとっても、作家としてのアイデンティティーの啓発と触発を共に歩んだ45年だと言えます。

私事ながら、1988年に日本音楽集団の米国ツアーで拙作「楽市七座」を初演して頂いて以来、創立25周年の「座興七重」、そして一昨年9月の定期公演での個展「喚起の時II〈20年の時を越えて〉」と要所にお声を掛けて頂き、また映画やテレビの音楽へも多くのメンバーに参加して頂きました。

光栄にも、日本音楽集団の約半分の歴史に関与させて頂き、今改めて思うことは、世阿弥の「守破離」の教えより「離」の境地へと昇華する存在にならんとするところであります。現代邦楽のみならず、今や現代音楽、否、政治・経済にいたるまでグローバリズムと称した無差別さゆえ、日本人は大きく誇りと自信を失いかけています。しかし、今こそ日本音楽集団がこれまで内外に発してこられた存在の意味が、私たちに日本人としての自覚と世界への自信を取り戻してくれると確信するところです。

伝統を守り、それを破ることで旧態から超越した日本音楽集団が、これから日本と世界へ発信する役割は益々大きくなることでしょう。これからも一作曲家として、一聴衆として、その活動を応援していきたいと思っております。

Yes we can

田村拓男

(日本音楽集団代表)



ようこそおこしくございました。

創立45年目を迎えた日本音楽集団は、今年度4回の定期演奏会を45周年記念シリーズとして開催しています。今回は作曲家和田薫氏を迎え、新曲「秋夢譚」と伊福部昭のオーケストラ曲「日本狂詩曲」の日本音楽集団版編曲・初演を和田さんの指揮で発表できますことは大きな喜びです。

伊福部先生が唯一残された邦楽器のための合奏曲〈郢曲「鬢多々良」(えいきよくびんたたら)〉(1973年)は邦楽界のみならず音楽界の大きな財産となりました。また、伊福部オーケストラ作品の中から邦楽器版にしてみたいという予てからの願望も、すでに「交響譚詩」「SF交響ファンタジー」(いずれも秋岸寛久編曲)の2曲が生まれており、それに今回の「日本狂詩曲」が誕生すれば、夢の「伊福部昭4大作品の夕べ」実現が可能となります。

今回、躊躇しながらも「日本狂詩曲」の邦楽器版への編曲を引き受けてくださった和田さんの「邦楽器版への編曲はある種の先祖返りを意味するかもしれない」という言葉を重く受け止めたいと思います。

日本音楽集団の創造の歴史は、伊福部昭・清瀬保二両大家の感化を受けた三木稔や長澤勝俊らを中心にはじまり、またその後輩らによって歴史が刻まれてきたといえます。5月の定期では清瀬保二・長澤勝俊作品を、9月定期では団内作曲家の作品が並び、そして今回の後半では再び三たび伊福部世界が…、来年1月には二十絃箏40年のフェスが展開されます。

これらの各企画・推進がこの数年、若手団員によるプロジェクトチーム結成により進められていることを喜びたいと思います。

新しい時代に向かって脱皮しつつある集団! Yes we can!

一、秋の舞 II 松下功作曲(1989年)

[尺八] I 米澤浩 II 元永拓 III 渡辺淳 IV 原郷隆
[細棹三味線] 守啓伊子 [太棹三味線] 山崎千鶴子
[胡弓] 帯名久仁子(助演) [琵琶] 藤高理恵子
[箏] I 久本桂子 II 高橋はるな [十七絃] 佐藤里美
[打楽器] I 望月太喜之丞 II 渡邊欣也(助演)

世界の民族はそれぞれを育んだ環境により、それぞれの文化を形成してきました。日本というアジアの一地域に位置する島国・日本は、アジアの他の国々に比べ、より独自の文化を生み出してきています。それは、言語、衣食住、音楽、美術等々あらゆる面で顕著に現れているように思います。

この「秋の舞 II」は、それぞれ独自の発展を遂げ現在の形態や音楽を形成してきたこれらの日本の楽器が、それぞれの奏法や、表現形態をあくまで固持しながらも、秋悠の情を共通理念とする一つの空間に融合しようと考えました。

舞台上に半円を描くように位置する 2面の箏と 1面の17絃と 2人の打楽器奏者「天」、客席内の4カ所、または舞台上でそれぞれが自由な方向を向いて演奏する胡弓、三絃、太棹、琵琶の 4名「地」、客席内または舞台上を移動しながら演奏する 4人の尺八奏者「人」の三つのグループが、それぞれ自由な速度で、あるいは自由な表現をしながら対峙、融合を繰り返します。(松下功)

二、クリタ～二面の箏のための～ 中村典子作曲(1998年)

[箏] I 宮越圭子 II 熊沢栄利子

昨年11月24日に師・廣瀬量平先生が逝去され、早くも1年になろうとしています。日本音楽集団の定期演奏会第151回コンポーザーズ・プロジェクト・シリーズの初回、廣瀬先生の指名で「クリタ」を作曲させて頂き、その後2002年の第161回定期～ASIA新世紀 協調と融合～でも取り上げて頂き、初演よりはや11年半の時が経ちました。

題名の「クリタ」は地名で、栗太と表記します。琵琶湖南部に位置する少なくとも7世紀頃から最近までそう呼ばれてきた「クリタ」なる土地に私は生まれ、京都に移住する30代前半まで暮らし続けてきました。京都に住み始めた1997年、東西のクロスオーバー的研究をする研究者・音楽家に与えられる第1回小倉理三郎音楽奨学金を受給、韓国を度々訪れ、大陸の空気の中で伽倻琴(カヤグム)や玄琴(コムゴ)、牙琴(アゼン)など、日本とは異なる箏族の響きを聴き、強く触発されるものがありました。家の周り是一片の稲田という鄙^{ひび}生まれの私には、箏や尺八の音さえも江戸期以来の都^{みやこ}の音楽と感じられ、自分との接点をなかなか見つけづらくておりましたが、大陸で聴いた響きとの出会いに深い縁を感じた時、邦楽器による作品をとうとう書き始めることが出来ました。あらためて、後年転機ともなる大いなる機会を与えてくださった天の師と日本音楽集団の皆様、心よりの感謝を捧げます。(中村典子)

三、星月夜 三宅一徳作曲(2000年)

[笛] 竹井誠 [尺八] I 渡辺淳 II 原郷隆 III 元永拓
[箏] I 桜井智永 II 彦坂恵美 [二十絃] 田村法子
[十七絃] I 久本桂子 II 丸岡映美
[打楽器] I 多田恵子 II 盧慶順 III 渡邊欣也(助演)
[指揮] 稲田康

秋の季語として使われている「星月夜」(星の光が明るい夜の意)。そんな夜空を求めて山間部に行き星空を見上げる時、その無限に開かれた世界を前に、ふと自我の内面というごく閉ざされた世界を意識している自分に気付く。太陽系を含む銀河系の中だけでも、2000億個(恒星の数のみ)あるといわれているこの輝く星々と、自分という個の存在との距離感に目眩を憶えながら、古来多くの人々が感じてきたであろう哲学を共有する瞬間だ。我々に届けられた、気の遠くなるような距離と時間を経て優しく風化したその輝きは、元を辿れば数千～数千万度という高温のもと、爆発をくり返し極めてダイナミックな変化を起こしつつある星々の営みに他ならない。そんな星々の織り成す「星づく夜」に喚起された3つのイメージである。「初演時のプログラムより」(三宅一徳)

四、秋夢譚 和田薫作曲(2009)委嘱初演

[笛] 竹井誠 [尺八] I 米澤浩 II 元永拓
[細棹] 山崎千鶴子 [琵琶] 久保田晶子
[二十絃] I 熊沢栄利子 II 田村法子 [十七絃] 宮越圭子
[打楽器] I 多田恵子 II 高橋明邦
[指揮] 和田薫

この作品は、日本音楽集団創立45周年記念の委嘱作品として、本年春頃より着手し10月に脱稿しました。日本音楽集団の基本編成である笛・2本の尺八・細棹三味線・薩摩琵琶・二面の二十絃箏・十七絃箏・2人の打楽器奏者という編成のために作曲されています。

曲は、大きく4つの部分から構成されています。衝撃的な打音と共に琵琶と笛のモチーフを受け、2本の尺八による主テーマが幽玄的に邂逅する導入部。十七絃箏と打楽器によるオスティナートに二十絃箏と笛の優雅な舞。二面の二十絃箏による静寂な調べ。そして10の楽器が錦絵のように織りなすアレグロ部で曲は終結されます。この4つの部分は全て主テーマを構成する[D-A-Eb]の組み合わせで構成され、10の楽器と4つの部分を融合する核となっています。

タイトルの「秋夢譚」は、物語風に自由に構成された形式と、「秋によせる」という今回の定期演奏会の副題から想起されたものです。

古典と現代の狭間で、それらを区別するのではなく、それぞれの旨味と邦楽器アンサンブルの更なる展開を、この作品へ企図しました。45周年の足跡の一つとして現代邦楽界の新たなレパートリーにならんことを期し願うところであります。

(和田 薫)

五、SF交響ファンタジー邦楽器版 伊福部昭作曲 秋岸寛久編曲(2007)

[箏] 西原祐二 [笙] 真鍋尚之(助演)
[笛] I 竹井誠 II 藤舎理生(助演)
[尺八] I 藤崎重康・渡辺淳・菅原久仁義(助演) II 米澤浩・元永拓・原郷隆
[細棹三味線] 蓑田司郎・蓑田弘大 [太棹三味線] 工藤哲子・山崎千鶴子
[胡弓] 帯名久仁子(助演) [琵琶] I 久保田晶子 II 藤高理恵子
[二十絃] I 桜井智永・高橋はるな II 熊沢栄利子・久本桂子
III 田村法子・彦坂恵美
[十七絃] I 宮越圭子・吉川由里子(助演) II 城ヶ崎美保・丸岡映美
[打楽器] I 望月太喜之丞 II 高橋明邦 III 石橋友佳(助演)
IV 阿部剛(助演)
[指揮] 田村拓男

伊福部先生は、東宝の特撮映画「ゴジラ」「宇宙大戦争」「三大怪獣地球最大の決戦」「怪獣総進撃」などのために書いた音楽を、ご自身の手によってコンサート用に「SF交響ファンタジー」という作品に編曲されています。その第一番を邦楽器版にアレンジしました。原曲の低音金管を中心としたサウンドは、邦楽器からは最も遠いところにあり、無謀なチャレンジかとも思いましたが、うまくいけば新たな伊福部サウンド、新たな音楽集団サウンドが引き出せることと思います。邦楽器は音域が狭く、転調の苦手な楽器がたくさんありますので、原曲とは違った転調を何度か強いられましたが、それでも特に箏群は頻繁な押し手と、煩雑な調絃変えに悩まされるところもあり、アレンジも苦労しました。しかし、アレンジに携わっている間中、何とも言えない充足感、幸福感があり、それは演奏してくれるメンバーや聴いてくださる方々にも共有していただけるものと思っています。

「初演時のプログラムより」(秋岸寛久)

六、日本音楽集団版 日本狂詩曲 伊福部昭作曲 和田薫編曲(2009)委嘱初演

- [箏築] 西原祐二 [笙] 真鍋尚之(助演)
[笛] I 竹井誠 II 藤舎理生(助演)
[尺八] I 米澤浩・原郷隆 II 藤崎重康・渡辺淳
III 元永拓・菅原久仁義(助演)
[細棹三味線] 山崎千鶴子・守啓伊子 [太棹三味線] 工藤哲子
[胡弓] 帯名久仁子(助演) [琵琶] I 久保田晶子 II 藤高理恵子
[二十絃] I 桜井智永・田村法子 II 熊沢栄利子・彦坂恵美
III 早川智子・高橋はるな
[十七絃] I 宮越圭子・吉川由里子(助演) II 城ヶ崎美保・久本桂子
[打楽器] I 多田恵子 II 渡邊欣也(助演) III 石橋友佳(助演)
IV 阿部剛(助演) V 盧慶順 VI 望月太喜之丞 VII 尾崎太一
VIII 高橋明邦
[指揮] 和田薫

原曲となるオーケストラ版は、1935年の作曲で、伊福部先生の云わば出世作となるオーケストラのための処女作品である。初めてのオーケストラ作品にも関わらず、パリで開催されたチェレプニン賞で堂々の第一席となり、初演はボストンに於いて、フェビアン・セヴィツキー指揮によるという、デビュー作にして世界的脚光を浴びることとなった作品である。

その日本狂詩曲を邦楽器、特に日本音楽集団の特性が活きる大合奏として編曲の依頼を受けたのが昨年秋。そこから熟考を重ね、締め切りを大幅に過ぎて脱稿したのが、9月の末であった。伊福部先生の代表作を編曲するという重責と、本来編曲を好まない伊福部先生の作家性を鑑みて、当初は躊躇していたのだが、生前伊福部先生自身がこの曲を日本音楽集団用に編曲を許諾されていたこと、ご遺族の方々のご理解とご協力があったことが、大きな後押しとなり編曲の筆をとることとなった。

私事ながら、高校生の頃から伊福部音楽へ傾倒し、日本狂詩曲もステージ演奏・レコード・CDと何百回と聴いたことだろう。伊福部門下の高弟、池野成曰く「最初にして、最高の伊福部作品」と云わしめるこの作品は、先生21歳の作ながら、すでに巨匠の風格と、熟練の管弦楽法を表している。私としても、これまで大いにお手本としてきた作品であるが、今回改めて慎重にスコアを解読してみて、その発想と書法の大胆さに驚嘆するばかりであった。

オリジナルの特性を活かすため、邦楽器版を編曲するにあたって日本音楽集団に2つのリクエストを申し上げた。1つは、打楽器の編成。もう一つは、胡弓の重用であった。

前者については、伊福部先生はかつて、「この作品は当初、ヴァイオリンと打楽器のための作品として着想していた」と語られたことがあった。またチェレプニン賞の審査の際に審査員である作曲家のルーセルが「打楽器が強過ぎるのでは」との意見が聞こえたところ、「この曲は打楽器が主で、それに管弦楽の旋律的伴奏が付いたもの」と云われたらしい。それほどまでに、打楽器への傾倒は伊福部音楽にとって絶対必要条件であり、原曲でのティンパニを除き、打楽器奏者8人という大打楽器軍団を、今回の編曲へも登用した。

後者についてだが、オリジナル曲の第1楽章の冒頭から延々と詠われるヴィオラの俗謡的旋律に、どうしても胡弓が必要だったためである。胡弓は、江戸時代、三曲合奏の旋律パートとして重要な役割を担っていた。その地位が尺八に取って代わられてから、胡弓登用の場面が少なくなってきたのには、個人的には残念な思いがする。しかし、今回その重要な位置に是非とも胡弓が必要な理由は、前述した通り伊福部先生の着想の起源がヴァイオリンと打楽器にあり、そのヴァイオリンの俗謡的旋律のモチーフの基が、明治後期から大正・昭和初期まで盛んだった甚句的なメロディーを奏でる辻弾きバイオリンにルーツを見ることができ、その哀愁漂う演奏は胡弓以外にないと考えたためである。

伊福部音楽の特徴として良く語られるのがアイヌ音楽との関連だが、この日本狂詩曲と19歳の時に作曲された「ピアノ組曲」(後に日本組曲としてオーケストラ化)は、日本の民俗芸能に着眼したという共通項がある。また、これから後に作曲される交響譚詩やシンフォニア・タブカーラなどには、ソナタ形式や転調など西洋的な書法を見ることができるのだが、この2作に関しては見事なまでにそれらを廃し、日本的語法の作品化を試みている足跡が見られるのである。第1楽章「夜曲」の果てしなく流れる旋律、第2楽章

「祭」の笛のお囃子など、若き伊福部昭が西洋の大作名曲と対峙して、それらに引けを取らない大作を創作しようとした志が深く残されている。

そういう意味に於いて、日本狂詩曲を邦楽器版へ編曲することは、ある種の先祖返りを意味するかもしれない。日本の伝統的素材で世界に名を馳せ、シベリウスをも感動させた日本狂詩曲が、邦楽器で生まれ変わることにどのような意味を持つのか、今夜の演奏でその真価を問われることになる。

最後にこの場をお借りして、今回の編曲作業に多大なるご支援と資料提供、及び打楽器借用に快くご協力頂いた伊福部家と東京音楽大学民族音楽研究所に深く感謝申し上げます。

(和田 薫)

[楽器協力：伊福部家、東京音楽大学民族音楽研究所]

日本音楽集団 最近の活動と今後の主な予定

2009年

- 5月 1日(金) 城西大学附属城西中学・高等学校 生徒と父母のための音楽鑑賞会
・東京芸術劇場大ホール
- 5月 16日(土) 東京都中央区母子寡婦会のためのアウトリーチ ・中央区役所8階大会議室
- 5月20日(水) 第195回定期演奏会 ～日本音楽集団45周年記念シリーズ～ ・第一生命ホール**
現代邦楽の黎明～清瀬保二から長澤勝俊へ
- 6月 24日(水) 愛知県豊田市立朝日丘中学校 修学旅行における総合学習 ・日本音楽集団笹塚練習場
- 7月 1日(水) TAN共催「MEET THE 和楽器」月島小学校 ・同校体育館
- 7月 8日(水) TAN共催「MEET THE 和楽器」月島小学校 ・同校体育館
- 7月 15日(水) TAN共催「MEET THE 和楽器」月島小学校 ・同校音楽室
- 8月 1日(土)/2日(日) 夏期合奏講習会 ・大日本家庭音楽会神田スタジオ
- 9月 8日(火) 第196回定期演奏会 ～日本音楽集団45周年記念シリーズ～ ・津田ホール**
邦楽器アンサンブルの展望II
- 9月 25日(金) TOKYO MUSIC CIRCLE INルネこだいら ・ルネこだいら大ホール
- 10月 23日(金) 松上小学校音楽鑑賞会 ・松上小学校体育館
- 11月 5日(木)/6日(金) 長崎県高等学校舞台芸術巡回公演
・佐世保海陽高校 ・佐世保工業高校 ・佐世保中央高校
- 11月18日(水) 第197回定期演奏会 ～日本音楽集団45周年記念シリーズ～ ・第一生命ホール**
秋によせる
- 12月 2日(水) 大田こども劇場 ・大田区民プラザ大ホール
- 12月 20日(日) 第5回城西サロンコンサート ・城西学園椎の木ホール

2010年

- 1月 9日(土) 日本音楽集団ニューイヤーコンサート ・調布市文化会館たづくり くすのきホール
- 1月23日(土) 第198回定期演奏会 ～日本音楽集団45周年記念シリーズ～ ・津田ホール**
日本音楽集団で育った二十絃箏の40年・過去と未来
- 1月 31日(日) 葛飾区知的障害者向けアウトリーチ
・葛飾区市民活動支援センター 多目的室
- 5月19日(水) 第199回定期演奏会 ・第一生命ホール**
- 7月 5日(月) 牧野由多可記念コンサート ・紀尾井ホール
- 8月 7日(土)/8日(日) 夏期合奏講習会 ・大日本家庭音楽会 神田スタジオ
- 11月 13日(土) カトリック戸塚教会チャリティーコンサート ・同教会聖堂
- 11月17日(水) 第200回定期演奏会 ・津田ホール**



特定非営利活動法人日本音楽集団

【正会員】(団員)(楽器別・五十音順)

笛
越智成人
竹井 誠(尺八)
西川 浩平

箏
西原 祐二

尺八
加藤 秀和
阪口夕山
添川浩史
原郷 隆
藤崎重康(笛)
水川寿也
三橋貴風
宮田耕八朗
元永 拓
米澤 浩
渡 辺 淳

胡弓
多々良香保里

三味線
杵家七三
工藤哲子
穂積大志
簗田弘大
簗田司郎
守 啓伊子
山崎千鶴子

琵琶
久保田晶子
首藤久美子
田原順子
藤高理恵子
細川華鶴子

箏
大畠菜穂子
久東寿子
熊沢栄利子
桜井智永
佐藤里美
島崎春美
城ヶ崎美保
高橋はるな
田村法子
早川智子
彦坂恵美
久本桂子
前川美保子
松下知代
丸岡映美
三宅礼子
宮越圭子
山田明美

吉村七重
渡辺正子

打楽器
臼杵美智代
尾崎太一
黒坂 昇
島村聖香
仙堂新太郎
高橋明邦(指揮)
多田恵子
望月太喜之丞
盧 慶順
若月宣宏

指揮
稲田 康
田村拓男
田村文生

代表
田村拓男

副代表
尾崎太一

作曲
秋岸寛久
川崎絵都夫
高橋久美子
福嶋頼秀

楽器・舞台
中島 隆

運営委員
秋岸寛久
高橋明邦
西川浩平
原郷 隆
簗田司郎
望月太喜之丞
米澤 浩

監事
宮田耕八朗
今井隆夫

事務局
中山美穂子
百武幸子

永久名誉団員
長澤勝俊

2009年10月現在

【賛助会員】(五十音順)

法人
(株)全音楽譜出版社
(株)宮本卯之助商店
NPOTリト・アーツ・ネットワーク

個人
青木 隆
青柳 堯
安達 眞五
新井克輔
江西 緑
大江 富枝
太田 颯衣
大塚悦子
川壁 正
岸 彰則

後藤陽子
佐藤利明
四反田素幸
棚野正士
土井恵見
水野正徳
宮川慶子
渡辺邦子
渡辺治子

【協力会員】(五十音順)

名誉団員
坂井敏子
白根きぬ子
野坂恵子
宮本幸子

団友
青木 誠
荒谷 俊治
伊藤惣一
稲垣隆史
大窪悦子
川崎祥悦
菊地悌子
楠 知子
鞍掛昭二
鯉沼廣行

坂田進一
芝 祐靖
清水義矩
杉浦弘和
砂崎知子
芹沢英雄
高野文子
田嶋恵美子
田嶋直士
田中利光
田中悠美子
鶴野和子
藤舎呂悦
藤舎呂船
仲俣申喜男
半田淳子
福田輝久

鳳声晴由
星 旭
細谷一郎
真鍋尚之
望月太左衛
望月太八
元橋康男
矢崎明子
柳家小三治
横山勝也
吉沢昌江
デイヴィッド・ローブ
デイヴィッド・ヒューズ
ヘンリー・バーネット
ラニー・シェルダン
王燕樵
張 曉輝

地方支部
道東支部 谷藤 彌
道東支部 竹馬 亘
水戸支部 斎藤 幸山
山梨支部 郷 晃
長野支部 佐藤幸宇山
新潟支部 飯吉正山
愛知支部 山田孝子
愛媛支部 渡辺治子
福岡支部 安武由香理
熊本支部 古川安春

2009年10月現在

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。

多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

年間 個人会員10,000円(一口以上)

法人会員30,000円(一口以上)

詳細は日本音楽集団事務局までお問い合わせ下さい。またホームページにおいても、お申し込み方法など詳しくご案内しております。

日本音楽集団ホームページ

<http://www.promusica.or.jp/>

ニッポニア・ファイブ受付中

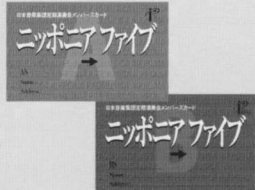
連続5回の定期演奏会がお得な料金でフリーパスになります。
●予約で良いお席を確保、お連れ様は1割引となります。日本音楽集団主催コンサート、CD、楽譜の割引が受けられます。

ニッポニアAファイブ

定価5,000円のA指定席を
5回連続15,000円

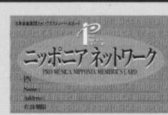
ニッポニアBファイブ

定価4,000円のB指定席を
5回連続12,000円



ニッポニアネットワーク

(日本音楽集団ファンクラブ)
定期演奏会や楽譜、CDなどの割引、その他の公演、活動、団員のリサイクルのご案内の送付などをいたします。



年間2,000円

種々のアンサンブルの妙、
悦しさが生き活きとした
ライヴの音から伝わります

日本音楽集団ライヴCD

邦楽器アンサンブルの展望 [I]

秋岸寛久:邦楽器のためのコンポジション
/ 邦楽器のためのインプロヴィゼーション
尾形敏幸:恋 こひうた 歌 春の章
川崎絵都夫:竹桐II
福嶋頼秀:源氏三縷

縦譜

出版されている作品は、
下記の8曲です。

- 「源氏三縷 (げんじさんてい)」
(福嶋頼秀作曲)
- 「子供のための組曲」(長沢勝俊作曲)
- 「ディヴェルティメント」(佐藤敏直作曲)
- 「夏夢三景」(川崎絵都夫)
- 組曲「人形風土記」(長沢勝俊作曲)
- 「春の一日」(長沢勝俊作曲)
- 「邦楽器のためのインプロヴィゼーション」
(秋岸寛久作曲)
- 「邦楽器のためのコンポジション」
(秋岸寛久作曲)



邦楽器のためのコンポジション
Composition for Japanese Instruments
comp. by Akikazu Hirohisa

邦楽器のためのインプロヴィゼーション
Improvisation for Japanese Instruments
comp. by Akikazu Hirohisa

源氏三縷
恋 春の章
竹桐II
福嶋頼秀



アイ・エム・エス

●楽器リース ●保管 ●移動 ●ステージ・スタッフ派遣
〒167-0043 東京都杉並区上荻2-3-4 ゆうでんビル
PHONE.03-3397-2292
FAX. 03-3397-7728
URL : <http://www.ims-tokyo.co.jp>
E-mail : ims-mail@ims-tokyo.co.jp

料に愉しむ

株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2-19-15
TEL 03(3792)8481 FAX 03(3792) 8437
URL : <http://kinko-do.com/>
E-mail : tokyo@kinko-do.com

特定非営利活動法人

日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033
ホームページ <http://www.promusica.or.jp/> E-Mail office@promusica.or.jp